

具体化。通信

## 株主のみなさまへ

### 第108期 報告書

2016年1月1日～2016年12月31日

#### CONTENTS

昭和電工の今、そして目指すもの……………	1
トップインタビュー……………	2
<b>+</b> 特集・中期経営計画進捗レポート 「Project 2020+」の「具体化。」……………	5
2016年事業別の概況……………	7
連結財務諸表……………	8
トピックス……………	9
クローズアップ・個性派事業の確立へ ……	11
会社概要……………	13
株式情報……………	14
株主インフォメーション……………	裏表紙



「事業基盤の  
強化 。」

# 豊かさと持続性の調和した社会の 創造に貢献します。



## 昭和電工グループ経営理念

私たちは、社会的に有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスの提供により企業価値を高め、株主にご満足いただくと共に、国際社会の一員としての責任を果たし、その健全な発展に貢献します。

## グループスローガン「具体化。」

夢や、願いや、思いつきにハッピーエンドを。

## 私たちの行動規範

1. 国際社会の一員としての自覚をもって誠実に行動します。
2. お客様に満足と安心を提供します。
3. グループ全社員が力を発揮できる企業風土をつくります。
4. 地域社会の期待に応えます。
5. 地球環境の維持改善に取り組みます。

# Top Interview

■ トップインタビュー ■

「少しでも貪欲に考える」を合言葉に掲げ、成長へのストーリーを明確化していきます。

昭和電工には、真面目で堅実、技術好きという企業文化があり、強固な企業インフラとして有機から無機、アルミまでの幅広い技術・製品・事業を有しています。これらは長年かけて築き上げてきた当社グループの財産ですが、大胆な差別化や「選択と集中」を打ち出し、非連続的な成長を実現していく上では、弱みとして表れる面もあります。

それを真の強みに変え、事業の持続的な発展につなげていくためには、成長へのストーリーを明確化し、環境変化のなかで当社グループが持つ選択肢を活かす形で機会を捉え、可能性を拓いていく必要があります。今後は「少しでも貪欲に考える」を合言葉に掲げ、成長へのストーリーを数多く準備しつつ、チャンスが来た時にすばやく大胆に行動することで、飛躍を遂げていく考えです。

## 真の成長を 実現するために

**新経営体制を発足し、  
中期経営計画を加速**

このたび2017年1月4日付で代表取締役社長を拝命いたしました森川宏平です。これまで当社グループが進めてきた変革への流れを途切れさせることなく、事業の強化・発展に向けてベストを尽くしてまいります。

代表取締役社長

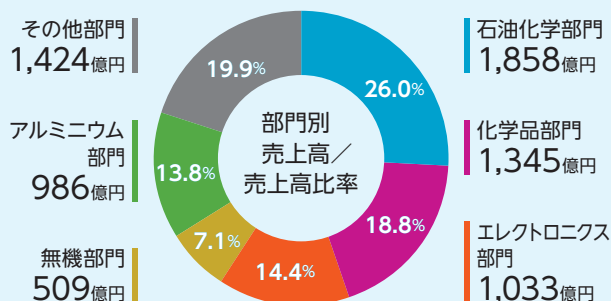
**森川 宏平**



# Top Interview

## ■主な経営指標の状況

(2016年連結、カッコ内は前年度比増減)



- 売上高 **6,712**億円(13.5%減)
- 営業利益 **421**億円(25.5%増)
- 経常利益 **387**億円(20.7%増)
- 親会社株主に帰属する当期純利益 **123**億円(114億円増)
- 1株当たり当期純利益 **86.27**円 (79.82円増)
- フリー・キャッシュ・フロー **152**億円(35億円減)
- 総資産営業利益率 (ROA) **4.5%** (1.1%増)
- 自己資本利益率 (ROE) **4.1%** (3.8%増)

より詳細なデータにつきましては、  
当社IR情報サイトをご参照願います。

<http://www.sdk.co.jp/ir.html>

昭和電工 IR

検索

## 石油化学部門をはじめ各部門とも減収、 営業利益・経常利益は計画を上回る増益。

2016年の連結業績は、売上高が減少したものの、営業利益・経常利益は、計画を上回る増益を果たしました。

売上高は、石油化学部門における原料ナフサ価格の下落が響き、エレクトロニクス部門におけるハードディスク出荷枚数も減少するなど各部門とも減少し、全体で前期比13.5%の減収となりました。

営業利益・経常利益は、オレフィン事業におけるエチレンプラントの高稼働や原料安などにより石油化学部門の利益が前期比で倍増し、化学品、アルミニウム、その他の3部門も増益となったことから、前期に引き続き改善が進みました。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失の減少により増益となりましたが、計画に対しては未達となりました。

中期経営計画「Project 2020+」を始動した当期は、成長加速事業の電子材料用高純度ガスやアルミ缶、優位確立事業のリチウムイオン電池材料などの生産増強を進めつつ、ドイツ SGL Carbonグループより黒鉛電極事業会社の株式取得の決定や、国内ポリプロピレンメーカーのサンアロマー株式会社の連結子会社化を実施し、事業基盤の強化を図りました。各事業部門における取り組みと業績については、P7をご参照願います。

中期経営計画の成果と進捗は、P5-6をご参照願います。

「Project 2020+」2年目は増収・増益を予想、  
成長加速・優位確立領域のさらなる飛躍へ。

2017年の売上高は、石油化学部門におけるオレフィン事業の堅調な需給、サンアロマー株式会社の通期での業績寄与、エレクトロニクス部門等における販売数量増などを見込み、増収を予想しています。また、利益面についても、石油化学、化学品、エレクトロニクスの各部門を中心に引き続き堅調で、営業利益、経常利益とも増益を予想しています。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損益の改善を受けて増益となる見通しです。

「Project 2020+」の目標達成に向けて、当社グループは引き続き収益性と安定性を高いレベルで維持する「個性派事業」の拡大に注力し、成長加速・優位確立事業のさらなる飛躍を目指します。

すべてのステークホルダーの満足に向けて、  
全社一丸で真の成長実現を目指します。

去る3月30日に開催いたしました第108回定時株主総会では、昨年の決算が未確定であったため、事業報告、計算書類等のご報告ができず、また、期末配当を見送ることとさせていただきます。

株主のみなさまには、多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを改めてお詫び申し上げます。

私たちは、すべてのステークホルダーが満足できる会社へと進化すべく、真の成長実現に全社一丸で取り組んでまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも長きにわたるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年 連結業績予想

(カッコ内は当期比増減)

売上高	.....	7,450	億円 (11.0%増)
営業利益	.....	545	億円 (29.6%増)
経常利益	.....	475	億円 (22.8%増)
親会社株主に帰属する 当期純利益	.....	250	億円 (103.2%増)

\*2017年4月25日発表



# 「Project 2020+」の「具体化。」

当社グループは、2016年から5か年の中期経営計画「Project 2020+」をスタートしました。本計画では、「2025年に目指す姿」の実現に向けて、①事業モデルの変革による既存事業群の収益力向上、②M&Aや事業提携などの推進、③海外展開の加速など、成長性・収益性に加えて「安定性」を重視した変革を実行し、持続的成長に向けて「収益基盤の強化」と「個性派事業\*の拡大」を推進していきます。

\*個性派事業 収益性と安定性を高レベルで持続的に維持できる事業

## I 2016年の個別事業展開における成果

### 成長加速



#### 電子材料用高純度ガス

- 東アジアにおける生産設備の新增設、サプライチェーン網の整備
- 米国における販売拠点の新設(2017年稼働)



#### 機能的化学品

- 中国、ASEANにおけるインフラ、自動車用途向けに機能的樹脂の生産能力増強、開発品の投入



#### アルミニウム

- 国内市場の少量多品種に対応する生産体制構築
- ベトナムで需要増加が見込めるスリーク缶(細径缶)の量産開始

### 優位確立



#### リチウムイオン電池材料

- 電気自動車等向けの大型用途の需要増加に対応する生産能力増強



#### パワー半導体用SiCエピタキシャルウェハー

- 高品質グレード「ハイグレードエピ」の生産能力増強

### 基盤化



#### ハードディスク

- ハードディスクドライブの生産調整にあわせ国内外の拠点における生産効率の向上と大幅なコストダウン



#### 黒鉛電極

- 世界の黒鉛電極需要に見合った生産体制の確立、徹底したコストダウン
- ドイツSGL GE社の全株式取得を決定

POINT 1



#### 石油化学

- サンアロマー株式会社の連結子会社化
- 年間を通してフル稼働を継続

POINT 2

## 中期経営計画ポートフォリオ

将来の大きな市場成長に対し、事業・技術の両面から競争優位なビジネスモデルを確立  
 リチウムイオン電池材料  
 パワー半導体用SiC  
 エピタキシャルウェハー

優位  
 確立

戦略的施策を積極的に遂行。市場成長を先取り、事業規模の急速な拡大を実現

成長  
 加速

電子材料用高純度ガス  
 機能性化学品  
 アルミ缶

レアアース  
 セラミックス  
 アルミ機能部材

再構築

事業環境・収益性・  
 ビジネスモデルの再構築を通じ利益、  
 キャッシュ・フロー増大を実現

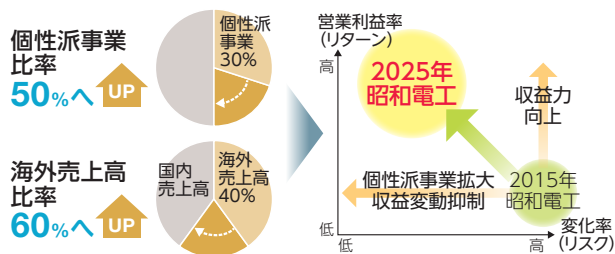
基盤化

ハードディスク 黒鉛電極  
 石油化学 基礎化学品  
 産業ガス ショウテック  
 高純度アルミ箔

一定の市場・事業規模を有する。  
 市況変動に対する抵抗力を向上、  
 安定した利益、キャッシュ・フローを創出

## 2025年に昭和電工グループが目指す姿

### 個性派事業拡大・収益力向上で 収益変化率の小さい事業構造へ



## II 2017年の重点テーマ

### 海外(アジア・欧州・北米)での事業展開を加速

#### ① 成長加速・優位確立事業のさらなる飛躍

##### 電子材料用高純度ガス

- 半導体・ディスプレイ市場の拡大にあわせた供給体制構築
- M&A・事業提携による事業拡大、北米市場への進出

##### 機能性化学品

- 中国、ASEANに加えインドでの事業展開

##### アルミ缶

- ベトナム市場でのさらなる事業競争力強化

##### リチウムイオン電池材料

- 市場動向を見極めながら、各部材における供給体制を強化

##### パワー半導体用 SiCエピタキシャルウェハー

- 市場の伸長にあわせた供給体制強化

#### ② SGL GE社の黒鉛電極事業との早期事業統合実現

## III 計数計画

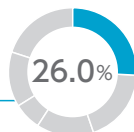
(単位:億円)	2016年(実績)	2017年(予想)	2018年(計画)
売上高	6,712	7,450	8,550
営業利益	421	545	570
親会社株主に帰属する当期純利益	123	250	300

### M&Aによる事業強化

**POINT1** 当社は、SGL Carbonグループ(ドイツ)の黒鉛電極事業会社であるSGL GE社の全株式を取得することで合意し、2017年年央の取得実行を目指しています。SGL GE社の有する欧州、米国、東南アジアの製造拠点を加えることで世界市場全域をカバーし、黒鉛電極のリーディングサプライヤーとしての地位を確立していきます。

**POINT2** 当社およびJXエネルギー株式会社は、ライオンデルバセルグループ(LYB)と共同出資するポリプロピレンメーカーであるサンアロマー株式会社の株式の50%にあたるLYB持分を取得しました。当社は、サンアロマー株式会社を連結子会社化とすることで、同社との連携を一層強化していきます。

## 石油化学部門

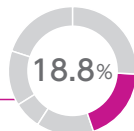


**売上高** 1,857億83百万円 (前期比 19.7%減)

**営業利益** 206億90百万円 (前期比 96.2%増)

オレフィン事業は、アジア市場における需給は堅調に推移したものの、原料ナフサ価格の下落を受けた製品価格の低下により減収となり、有機化学品事業は、原料価格低下を受け、酢酸ビニル、酢酸エチルの販売価格が低下し減収となりました。両事業ともに高い稼働が続いたことに加え、原料価格低下等により増益となりました。

## 化学品部門

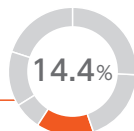


**売上高** 1,345億29百万円 (前期比 5.5%減)

**営業利益** 138億24百万円 (前期比 29.1%増)

情報電子化学品事業は、円高の影響は受けたものの販売数量の増加により小幅増収となりました。また、産業ガス事業は、小幅増収となりました。一方、基礎化学品事業は、販売は総じて堅調に推移したものの、原料価格の下落を受けアクリロニトリル等の販売価格が低下し減収となり、機能性化学品事業は、前期のフェノール樹脂事業の譲渡により減収となりました。

## エレクトロニクス部門

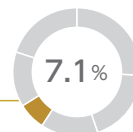


**売上高** 1,033億39百万円 (前期比 21.4%減)

**営業利益** 139億7百万円 (前期比 20.4%減)

ハードディスク事業は、サーバー向けの販売数量は増加したものの、パソコン向け販売数量が減少したことに加え、円高の影響を受け減収となりました。電子機能材事業は、レアアース磁石合金、化合物半導体がそれぞれ減収となりました。

## 無機部門

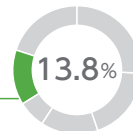


**売上高** 508億70百万円 (前期比 19.9%減)

**営業損益** △57億58百万円 (前期比 45億10百万円減)

黒鉛電極事業は、鉄鋼業界における中国の過剰生産の影響によるアジア、米国等での生産調整を受け、市況が低下し減収となりました。セラミックス事業は、販売数量の減少により減収となりました。

## アルミニウム部門

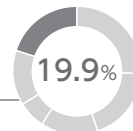


**売上高** 985億75百万円 (前期比 2.2%減)

**営業利益** 44億16百万円 (前期比 72.3%増)

アルミ圧延品事業は、電解コンデンサー用高純度箔の国内向け販売数量が増加したことに加え、昭和電工鋁業(南通)有限公司の中国での販売数量が増加し増収となりました。アルミ機能部材事業は、アルミ地金の下落と一部自動車向けの販売数量が減少し減収となりました。アルミ缶事業は、ハナキャン社(ベトナム)の販売数量の増加により増収となりました。

## その他部門



**売上高** 1,423億64百万円 (前期比 3.3%減)

**営業利益** 17億75百万円 (前期比 33.6%増)

リチウムイオン電池材料は、スマートフォン向けに加え車載向けの販売数量が増加し小幅増収となりましたが、昭光通商株式会社は、減収となりました。



## 連結財務諸表 ■ Consolidated Financial Statements ■

### ■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期 2016年12月31日現在	前 期 2015年12月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	335,077	331,525
固定資産	597,621	608,970
有形固定資産	487,135	502,293
無形固定資産	11,712	12,268
投資その他の資産	98,775	94,409
資産合計	932,698	940,494
<b>負債の部</b>		
流動負債	310,792	331,093
固定負債	310,675	301,259
負債合計	621,467	632,352
<b>純資産の部</b>		
株主資本	257,453	247,829
資本金	140,564	140,564
資本剰余金	62,033	62,221
利益剰余金	65,358	55,202
自己株式	△ 10,502	△ 10,157
その他の包括利益累計額	39,107	48,683
非支配株主持分	14,671	11,629
純資産合計	311,231	308,142
負債純資産合計	932,698	940,494

### ■ 連結決算対象会社

連結子会社数：48社

持分法適用会社数：12社

### ■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 2016年1月1日から 2016年12月31日まで	前 期 2015年1月1日から 2015年12月31日まで
売上高	671,159	775,732
売上原価	544,994	653,924
売上総利益	126,164	121,808
販売費及び一般管理費	84,111	88,299
営業利益	42,053	33,508
営業外収益	9,006	8,061
営業外費用	12,369	9,520
経常利益	38,690	32,050
特別利益	1,659	8,391
特別損失	22,821	34,377
税金等調整前当期純利益	17,529	6,064
法人税、住民税及び事業税	3,168	3,437
法人税等調整額	523	10,525
当期純利益又は当期純損失(△)	13,838	△ 7,898
非支配株主に帰属する当期純利益 又は当期純損失(△)	1,533	△ 8,819
親会社株主に帰属する当期純利益	12,305	921
1株当たり当期純利益	86.27円	6.45円

\* 2016年7月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行いました。  
1株当たり当期純利益は、前期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、株式併合後の株式数を基に算出しています。

### ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 2016年1月1日から 2016年12月31日まで	前 期 2015年1月1日から 2015年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	68,949	61,170
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 53,754	△ 42,497
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,220	△ 21,336
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 523	△ 1,058
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,453	△ 3,721
現金及び現金同等物の期首残高	54,597	55,162
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	136	3,002
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 7
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	161
現金及び現金同等物の期末残高	56,186	54,597

化学品部門

## 熱硬化性成形材料事業の 中国における供給体制強化

熱硬化性成形材料事業の中国第2拠点である昭和電工新材料(珠海)有限公司は、2017年1月より量産・販売を開始いたしました。熱硬化性成形材料は、電気自動車や家電等向けのモーター封止材としての需要拡大が見込まれています。



昭和電工新材料(珠海)有限公司

## 分析用カラム「Shodex®」の ラインナップを拡充

当社は、高速液体クロマトグラフィ用の分離・分析カラム「Shodex®」において、迅速分析を実現する環境対応型の製品、抗体医薬・脳内物質などの医薬分野、バイオエネルギー分野における高感度分析を可能とする製品のラインナップを拡充いたしました。



「Shodex®」製品

## 情報電子化学品事業の強化

当社は、韓国のSKマテリアルズ社と、半導体の製造工程で使われる高純度ガスCH<sub>3</sub>Fの製造・販売を行う合併会社を設立することで合意いたしました。また、半導体フォトレジスト向けに需要が見込まれる高純度溶剤「ソルファイン®」の新グレード製品の精製設備を新設し、2017年6月より稼働を開始する予定です。



電子材料用  
高純度ガス・溶剤

## 生分解性樹脂の 製造および販売の終了

当社は、レジ袋や農業用マルチフィルム等に使用される生分解性樹脂「ビオノーレ®」の製造および販売の終了を決定いたしました。生産は2016年12月末に終了し、販売は2017年12月末までに終了いたします。

## アルミニウム部門

### アルミ缶、国内市場・ ベトナム市場で新規展開

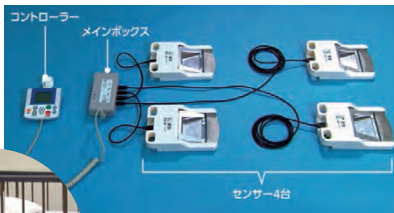
昭和アルミニウム缶株式会社は、飲料缶の少量多品種生産に適し、高精細な印刷方式による生産ラインを新設し、量産を開始いたしました。また、ハナキャン社（ベトナム）では、デザイン性の高さから世界中で採用が進んでいる通常缶より胴径が小さく背の高いスリーク缶の生産を開始いたしました。



インクジェット印刷による見本缶

### 介護ベッド用離床センサー 「SHOCARES™」の販売を開始

当社が開発した「SHOCARES™」は、既存のベッドに簡単に設置でき、加重によるセンサーの変形を電気信号に変換し重量を測定します。利用者の動作から離床を予知、検知し、看護・介護者に通知することで、転倒・転落のリスクを軽減します。



「SHOCARES™」



### 自動車用アルミ部品の 東南アジア拠点を統合

当社は、ショウテック事業の競争力強化を目的として、マレーシアのアルミニウム鋳造工場に、シンガポールのアルミニウム鍛造工場を統合することを決定し、2017年上期よりマレーシアでの一貫生産を開始いたします。



「ショウテック®」製品

## エレクトロニクス部門

### ハードディスク事業 競争強化施策を推進

当社は、「ベスト・イン・クラス戦略」推進の一環として、アルミニウム基板とハードディスクの生産体制一体化を国内外で完了させました。また、高効率の生産ラインへの集約による生産体制の適正化を実施し、月間生産能力を3,000万枚から2,000万枚に削減いたしました。



ハードディスク

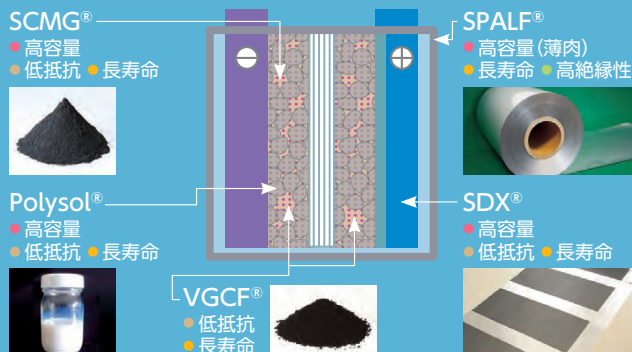
豊かで快適な生活環境を次世代技術で支える

# リチウムイオン電池 (LIB)材料

## 当社が培った個性派技術をフルに生かし新たな価値を創造

- ▶ 世界で初めて量産化に成功した高純度カーボンナノファイバーである導電助剤「VGCF®」
- ▶ 独自の黒鉛製造技術による人造黒鉛負極材「SCMG®」
- ▶ 塗る、貼る、創る技術で生み出されたアルミラミネートフィルム「SPALF®」
- ▶ 有機、無機、アルミの融合製品カーボンコート箔「SDX®」
- ▶ 最適な設計技術、制御技術で生み出された負極用バインダー「Polysol®」
- ▶ 2019年の量産を目指し高容量Si黒鉛複合負極材を開発

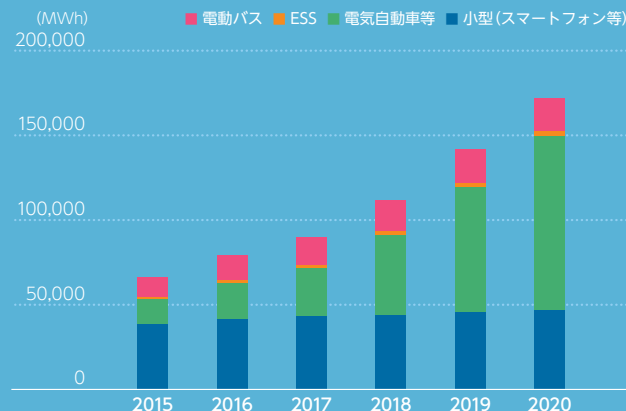
### ■ リチウムイオン電池イメージ図



## スマートフォン等の普及で 小型LIB向け需要が拡大 大型LIB向けはPHEV・EV等の 電気自動車が市場の成長を牽引

- ▶ スマートフォンやタブレット端末は、先進国のみならず新興国へも広がり、小型LIBの需要拡大
- ▶ EV市場は世界的に急拡大
- ▶ ISS(アイドリングストップ車)、ESS(エネルギー貯蔵システム)もターゲット

### ■ リチウムイオン電池の容量別市場動向 (B3調査レポート)



## 当社主力製品の特長と今後の展開

### SPALF<sup>®</sup>

#### 特長

- 優れた絶縁性
- 薄肉化しても、良好な成形性を保持

#### 今後の展開

- 薄肉化により、LIBの容量アップに貢献
- 絶縁性が高く大型LIBの安全性向上に貢献

### VGCF<sup>®</sup>

#### 特長

- 高純度で高い導電性
- 電極への少量添加でLIBの抵抗低減、長寿命化が可能
- 良好な分散性

#### 今後の展開

- EV、HEV、ISS向け大型LIBの急速充電特性向上、長寿命化に貢献

### SCMG<sup>®</sup>

#### 特長

- 優れた寿命特性
- 優れた高入出力特性

#### 今後の展開

- EV、HEV、ISS向け大型LIBの急速充電特性向上、長寿命化に貢献
- ESS向け大型LIB用途に貢献

## ✓個性派事業の確立に向けて 執行役員先端電池材料事業部長 渋谷 昌夫



2017年1月より体制強化を目的に先端電池材料事業部とし、事業の成長・拡大を加速していきます。

スマートフォン等用の小型LIB向け7割、車載用の大型LIB向け3割の比率により、2020年売上高300億円、営業利益率10%以上を目標とします。

高容量Si黒鉛複合負極材の開発を加速させるなど、LIB材料における「高容量・低抵抗・長寿命」のフロントランナーとして、新たな価値を創造していきます。

# 会社概要 ■ Corporate Profile ■

## ■ 会社概要 (2016年12月31日現在)

社 名 昭和電工株式会社  
 英文社名 Showa Denko K.K.  
 本 社 〒105-8518 東京都港区芝大門一丁目13番9号  
 電話(03)5470-3111(総務グループ)

設 立 1939年6月  
 資 本 金 1,405億64百万円  
 従業員数(連結) 10,146名  
 ホームページ <http://www.sdk.co.jp/>

## ■ 役員 (2017年3月31日現在)

### 取締役・監査役

代表取締役会長 市川 秀夫	※取締役 秋山 智史
代表取締役社長 社長執行役員 森川 宏平	※取締役 森田 章義
取締役 常務執行役員 田中 淳	※取締役 尾嶋 正治
取締役 常務執行役員 高橋 秀仁	常勤監査役 武藤 三郎
取締役 執行役員 上口 啓一	常勤監査役 鯉沼 晃
取締役 執行役員 加藤 俊晴	※監査役 手塚 裕之
	※監査役 小原 之夫
	※監査役 齋藤 聖美

(注) ※印の取締役および監査役は、社外役員であります。

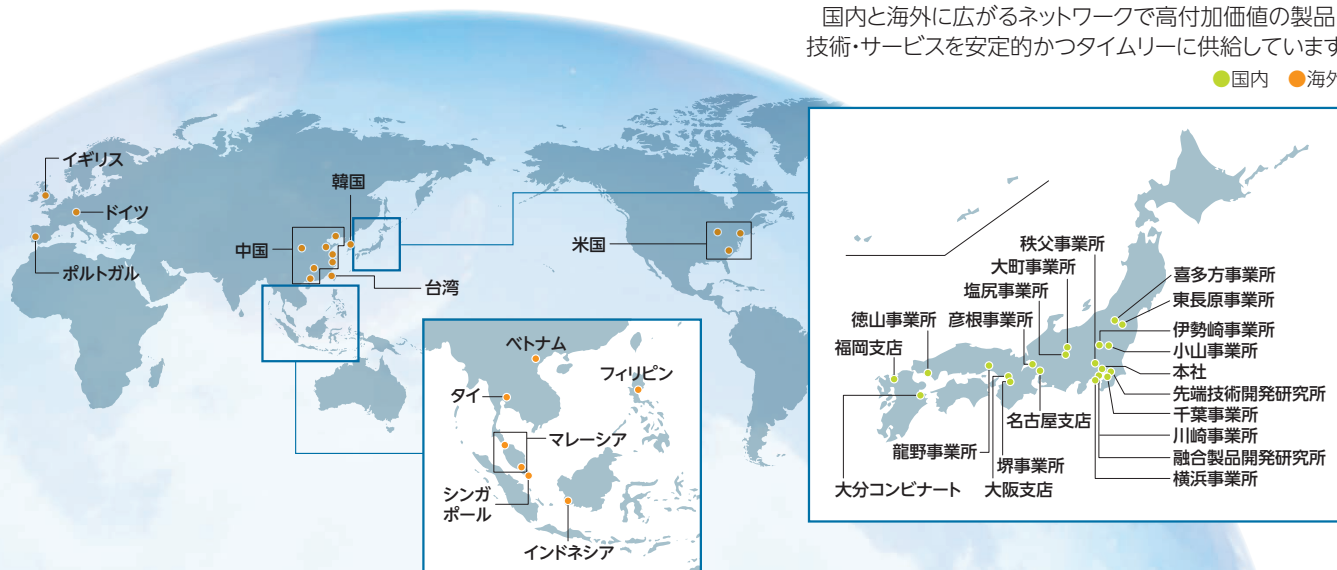
### 執行役員

専務執行役員 石川 二郎	執行役員 西村 浩一
常務執行役員 新井 龍晴	執行役員 柳下 政道
執行役員 Robert C. Whitten	執行役員 海宝 益典
執行役員 高崎 完二	執行役員 大王 宏
執行役員 竹内 陽一	執行役員 山本 卓司
執行役員 佐藤 貴幸	執行役員 渋谷 昌夫
執行役員 竹内 元浩	執行役員 神保 彰宏
執行役員 長井 太一	執行役員 和田 哲夫

## ■ 当社のネットワーク

国内と海外に広がるネットワークで高付加価値の製品・技術・サービスを安定的かつタイムリーに供給しています

●国内 ●海外



## 単元株式数の変更・株式併合のご案内

当社は、2016年7月1日付で、単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)、株式併合(10株を1株に併合)を実施いたしました。

### ■ 株式の状況 (2016年12月31日現在)

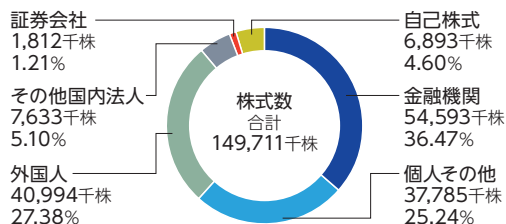
発行可能株式総数 ..... 330,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 149,711,292株  
 株主数 ..... 79,064名

### ■ 上位10名の株主 (2016年12月31日現在)

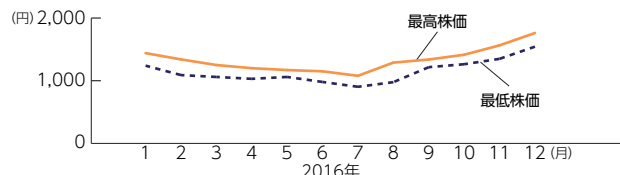
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,516	4.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,554	3.89
富国生命保険相互会社	5,517	3.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	4,512	3.16
第一生命保険株式会社	3,600	2.52
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	3,110	2.18
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,007	2.11
明治安田生命保険相互会社	2,645	1.85
昭和電工従業員持株会	2,544	1.78
日本生命保険相互会社	2,006	1.40

(注) 持株比率は発行済株式総数から自己株式(6,893千株)を控除して算出しております。

### ■ 株式の所有者別状況 (2016年12月31日現在)



### ■ 株式データ



\*2016年1月に株式併合が行われたと仮定し、株式の推移を表示しております。

### 株主メモ

**事業年度** 毎年1月1日から12月31日まで

**定時株主総会** 3月

**株主確定基準日** (1) 定時株主総会・期末配当 12月31日  
 (2) 中間配当 6月30日  
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

**公告方法** 電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL  
<http://www.sdk.co.jp/>

**単元株式数** 100株

**株主名簿管理人** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社

**同事務取扱場所** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(郵便物送付先)  
 (電話お問い合わせ先)

〒168-8507  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 TEL. 0120-288-324

### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社へお願いいたします。株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)へ預託されていなかった株主様については、株主名簿管理人である上記のみずほ信託銀行株式会社の口座(特別口座といえます。)で管理させていただいております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話お問い合わせ先へお願いいたします。未払配当金については、株主名簿管理人に加え、株式会社みずほ銀行の全国本支店でもお手続きいただけます。

### ご案内

当社は、「単元未満株式の買増制度」を導入しております。

1単元(100株)に満たない株式をご所有の株主様は、単元未満株式と併せて1単元になる株式を買増請求することができます。お手続きなどの詳細については、当社株主名簿管理人(みずほ信託銀行)へお問い合わせください。

なお、単元未満株式の買増請求につきましても、お取扱いいたします。

各種IRツールにつきましては、当社WEBサイトでご覧いただけます。

<http://www.sdk.co.jp/ir.html>

## 臨時株主総会決議ご通知

2017年6月27日開催の臨時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申し上げます。

### 記

#### 報告事項

1. 第108期(平成28年1月1日から平成28年12月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第108期(平成28年1月1日から平成28年12月31日まで)計算書類の内容報告の件

#### 決議事項

##### 第1号議案 剰余金の配当の件

本件は、原案どおり承認可決され、平成29年5月11日を基準日とする配当金は、1株につき30円と決定いたしました。

以上

## 株式に関する『マイナンバー制度』のご案内

### マイナンバー制度とは

国民一人ひとりにマイナンバーを配布し、その番号によって複数の行政機関に存在する個人の情報を正確に連携させるための新しい社会基盤です。

### 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、税務署へ提出する支払調書に株主様のマイナンバーを記載します。

#### 主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
  - 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となりますので、お取引の証券会社等へお届出ください。

### マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

▶証券会社に口座を開設されている株主様  
口座を開設されている証券会社にお問合せください。

▶証券会社に口座を開設されていない株主様(特別口座の株主様)  
下記フリーダイヤルまでお問合せください。

みずほ信託銀行 証券代行部  
フリーダイヤル 0120-288-324

# 昭和電工株式会社

<http://www.sdk.co.jp/>



適切に管理された森林資源を用紙の材料にしています。



IPA(イソプロピルアルコール)等の有害物質を含む「湿し水」を使わない水なし印刷を採用し、VOCの発生を大幅に削減しています。



VOC(揮発性有機化合物)の発生が少ない、ベジタブルインクを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。